

◎評価シート（平成30年度）

記入日 31年 3月 5日

平成30年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPO はらっぱ (殿井 幸代)	事業担当課名 (記入者名)	生涯学習推進室 (井上 真理)
事業名	放課後の子どもの居場所事業		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門		<input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

小中学生が自由にあそべる場所がない現状の解決策として、子どもがありのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を地域に開設し、存続させることを目的とする。

(2) 事業費の負担額

団体	0 円
市	510,300円
合計	510,300円

(3) 実施した内容

子どもたちが平日の放課後、自由に参加できる居場所の開設

- みんなであそべるカードゲーム等を用意し、子ども同士が自由にあそべるフリースペースとして、平日の週3回午後3～5時まで、西鳥取・尾崎・東鳥取の3会場で実施した。
- 夏休み、冬休みは、午後1～5時まで開催。
- 全体の交流会として 10/29「おやこカーニバル」、12/25「スラックライン」、3/9「ボランティアフェスティバル」、地域教育協議会イベント時に参加
- 「子どもをとりまく社会課題（ひきこもり児童等）」への対応 月一回午前開設 10～12 東鳥取会場

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1

相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校へ案内チラシを毎月配布し、開催案内を参加対象者に届けることができた。 ・安定した財源により継続して運営し、関わるスタッフの確保ができた。
市 にとって	委託することにより、事業の事務が軽減できた。
市民 にとって	放課後に、子どもが主体的に遊び、同学年だけでなく異年齢で交流する場所ができた。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>市と協働で実施することにより、安定して実施でき、子どもたちは開設日を楽しみにしてくれているが、今後に向けて、様々な課題が見える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場は、3ヶ所いずれも子どもにとって適切とは言いがたく、トラブルも起こっている。また、熱中症への配慮も必要である。 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちがのびのびと遊べる場所の検討は今後も必要。尾崎は冷房設備がないため、夏休みは緊急措置として、東鳥取で開催した。 ・担い手となる人手が不足気味であり、実施回数をこなすのが難しい。ボランティアも含め、より多くの人に関わってもらえるよう、働きかけが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> →放課後の居場所の取り組みを地域や学校、保護者への理解と協力を求め、子どもたちが安心安全に過ごせるためにあそび場の見直しや必要性などキッズはらっぱを通してより関心を持ってもらう。そのためには居場所事業の広報活動など強化し、地域や保護者への周知に努める。
--

- 何度も来ている子どもについて、緊急連絡先が不明なまま受け入れを続けているケースが散見され、市としては、もしもの際の連絡体制に不安がある。平日の放課後開催時に、忘れ物などで保護者に連絡を取りたい場合は、所属する小学校の協力により、小学校を通して連絡を行っている。
- 東鳥取は参加者が少ない。東鳥取小学校向けに案内チラシを配布し、広報に努めている。
- 尾崎は人数が多すぎ、安全管理が困難な状況である。会場内のスタッフの死角を減らすため、小部屋のドアを開放しておく対策を行った。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案事業継続 提案事業以外） 休止または終了
市が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

- 放課後の居場所事業は単独の実施は不可能であり、今後発展させていくためには市との協働は不可欠である。子どもたちが健やかに過ごせるまちづくりへとつなげていくためには、双方の関係性をより深め協力し事業の発展へとつなげていく。
- 昨夏は異常気象のため、熱中症防止の観点から、夏休み期間の尾崎会場の開催場所を地域交流館からふれあいホームに変更した。来年度の尾崎会場は、夏休み期間は冷房設備のあるふれあいホームで実施する。
- より多くの子どもたちに参加できる機会の提供を目的として、土曜日午前中に、尾崎小学校、西鳥取小学校の体育館で計10日間と、毎月1回程度、ふれあいホームで土曜の午後に実施する予定である。